

『ローマの信徒のみなさんへ』私訳（Ⅲ）

— 承前 —

阿 部 包

前号（第6号）に掲載した『ローマの信徒のみなさんへ』（Ⅱ）に続いて、その（Ⅲ）を掲載する。今回は9章から11章までである。小見出しを列記すると次のとおりである。〈イスラエルの選び〉、〈神の怒りと憐れみ〉、〈イスラエルと福音〉、〈万人の救い〉、〈イスラエルの残りの者〉、〈異邦人の救い〉、〈全イスラエルの救いという神秘〉。今回の9～11章は、神の義が救済史の中でどのように実現していくのかが語られる箇所であるが、ここでのパウロは、同族であるイスラエルに対する自らの熱い思いを切々と訴えているかのようなのである。ここには、全イスラエルの救いのために奉仕する「異邦人の使徒」パウロがいる。なお、脚注は初回からの通し番号である。

ローマの信徒のみなさんへ

9

〈イスラエルの選び〉

1 わたしはキリストにあって真実を語ります、嘘偽りは言いません¹⁶⁰。わたしの良心が聖なる霊によってわたしのために共に証言していますが、
2 わたしには大きな悲しみがあり、わたしの心には絶え間ない痛みがあります¹⁶¹。3 というのは、わたし自身、わたしの兄弟たち、つまり肉に

¹⁶⁰ 同じ表現は、2コリント11：31、ガラテヤ1：20に出る。

¹⁶¹ 「悲しみ」は *lypē*、「痛み」は *odynē*。前者は「心痛、憂慮」とも、後者は

基づくわたしの同族のためなら、呪われた者となってキリストから切り離されることさえずっと願ってきた¹⁶²からです。4 彼らはイスラエルの民です。養子にさせていただいたこと¹⁶³も栄光も契約も、律法を授与されたことも礼拝も約束も彼らに属することです。5 父祖たちも彼らに属し、肉に基づけばキリストも彼らから出たのです。万物を支配しておられる神¹⁶⁴は、永遠にほめ称えられますように、アーメン。

6 さて、神の言葉が散り落ちてしまった¹⁶⁵というようなことではありません。というのは、イスラエル出身の者たちすべてがイスラエルではなく、7 すなわち、アブラハムの子孫すべてがその子どもたちではなく、むしろ、「イサクの中にこそ、あなたの子孫は呼び出されるだろう」からです¹⁶⁶。8 これは、すなわち、肉の子どもたちが神の子どもたちではなく、むしろ約束の子どもたちが子孫と見なされる、ということです。9 というのは、約束の言葉は、次のようなものだからです。「来年の今ご

「苦痛、心痛、苦悶」とも訳しうる。

¹⁶² 「ずっと願ってきた」は *euchomēn*。 *euchomai* の未完了過去形。動作の反復も可能だが、継続と取った。青野太潮訳は前者。協会訳、新共同訳、フランススコ会聖書研究所訳、新改訳はいずれも、現在時制のように訳している。

¹⁶³ 原語は *hyiothesia*。 8 : 15, 23 に既出。他にガラテヤ 4 : 5。注 131, 参照。「養子としての身分」も可。F. ハーンは 8 : 23 とこの箇所を「実子の法的地位」をも意味することの例として上げているが、イスラエルを「実子」とするのは、短絡的だろう。『ギリシア語 新約聖書釈義事典 III』教文館、1995 年、433 頁、参照。

¹⁶⁴ 原語は *ho ōn pantōn theos*。直訳は「万物の上におられる神」。

¹⁶⁵ 原語は *ekpeptōken*。 *ekpiptō* の現在完了、三人称、単数。もともとは「～落ちる、散り落ちる」を意味する。そこから「無効になる、駄目になる」の意味で転用される。新共同訳「効力を失った」、青野太潮訳「〔地に〕落ちてしまった」、協会訳・新改訳「無効になった」、フランススコ会聖書研究所訳「無効になってしまった」。神の約束の言葉が、花が木から散り落ちるように、神ご自身から離れて散り落ちてしまっ、もう実現の可能性がない様を表現している。

¹⁶⁶ 引用は、LXX 訳創世記 21 : 12。秦剛平訳「おまえの子孫はイサクの系統だから。」「七十人訳 ギリシア語聖書 I 創世記」河出書房新社、2002 年、当該箇所、参照。青野訳「あなたにとっての子孫は、イサクにおいて召し出されるであろう。」

ろ、わたしは来るだろう。そのときサラには息子ができているだろう」¹⁶⁷。

10 いや、それだけではありません。むしろ、わたしたちの父祖イサクという一人の人によって受胎したりベカもそうです。11-12 というのは、その子どもたちがまだ生まれてもおらず、まだ何も善いことも悪いこともしていないときに、選びに基づく神の計画が、諸々の業によってではなく召し出す方によって、そのまま進むように、彼女に「兄は弟に仕えるだろう」と言われたからです¹⁶⁸。13 それは次のように書かれているとおりです。「わたしはヤコブを愛し、エサウを憎んだ」¹⁶⁹ と。

14 では、わたしたちは何と言いましょか。「神の側に不義はないのだろうか」¹⁷⁰ とでも。断じて否、です。15 というのは、神がモーセに「わたしは憐れもうと思う者を憐れみ、慈しもうと思う者を慈しむ」¹⁷¹ と言われているからです。16 こういうわけで、ことは望む人によるのでも、努力する人によるのでもなく、憐れむ神によるのです。17 実際、聖書はファラオに言っています。「わたしがあなたを立てたのは、あなたによってわたしの力を示し、全地にわたしの名を告げ知らせるため」¹⁷² と。18 こういうわけで、神はご自分が望まれる者を憐れみ¹⁷³、やはりご自分が望まれる者を頑なにする¹⁷⁴ のです。

¹⁶⁷ 引用は、LXX 訳創世記 18：10、14。

¹⁶⁸ 11-12 節は、原文の構成上、11 節を訳し終えて 12 節に進むことが不可能な箇所。因みに、12 節は「諸々の業によってではなく召し出す方によって」、「彼女に『兄は弟に仕えるだろう』と」に相当する。引用は、LXX 訳創世記 25：23。

¹⁶⁹ 引用は、LXX 訳マラキ 1：1～2。

¹⁷⁰ 原文は *mē adikiā para tō theō*；。新共同訳「神に不義があるのか」、協会訳「神の側に不正があるのか」、新改訳「神に不正があるのですか」、フランススコ会聖書研究所訳「神は正しくないかたでしょうか」、青野訳「神には不義があるのではないのか〔とでも言うのか〕」等。

¹⁷¹ 引用は、LXX 訳出エジプト記 33：19。

¹⁷² 引用は、出エジプト記 9：16。

¹⁷³ LXX 訳出エジプト記 33：19、参照。

¹⁷⁴ LXX 訳出エジプト記 4：21、7：3、22、8：15、19、等、参照。

〈神の怒りと憐れみ〉

19 そうであれば、あなたはわたしに言うでしょう。「[それでは]なぜ神はまだ責める¹⁷⁵のだろうか。神の御意志¹⁷⁶に誰が反抗できようか」¹⁷⁷と。20 ああ、人間よ、それどころか、お前は一体何者だろう、神に抗弁する¹⁷⁸とは？「造られた者が造った者に言えるだろうか。『なぜ、あなたはわたしを造ったのか、』」こんなふうに、などと¹⁷⁹。21 陶器職人は、同じ粘土の塊から、貴いことに用いる器を造ったり、卑しいことに用いる器を造ったりする権限を持っていないのでしょうか¹⁸⁰。22 しかし、もし、神が、怒りを示そうと、またご自身の力を知らせようと望みながらも、滅びへの用意ができていた怒りの器¹⁸¹を大いなる寛大さで忍耐して

¹⁷⁵ 原語は *mempsetai*。パウロではここだけに出る。他にヘブライ 8：8。

¹⁷⁶ 原語は *boulēma*。やはりパウロではここだけ。他に使徒言行録 27：43, 1ペトロ 4：3。

¹⁷⁷ 知恵の書 12：12, 参照。

¹⁷⁸ 原語は *antapokrinomenos*。<*anti*+*apokrinomai*。パウロではここだけ。他にルカ 14：6。

¹⁷⁹ 引用は、LXX 訳イザヤ 29：16。「こんなふうに」(*houtōs*) はパウロが引用文の最後に付加したもの。敢えて、若干変則的な訳にしてある。

¹⁸⁰ 「陶器職人」は *kerameus*。「陶工」「焼き物師」。青野訳「陶器師」は一般的表現とは言えない。「貴いことに用いる器」「卑しいことに用いる器」はそれぞれ、*ho (men) eis timēn skeuos*, *ho (de) eis atimiān*。背景には、エレミヤ 18：4～6, 知恵の書 15：7がある。後者は「焼き物師は苦勞して粘土をこね、／生活に役立つものを一つ一つこしらえる。／同じ材料から、／高尚な用途のための器と、／そうでない器とが同じように造られる。／それら一つ一つの用途を決めるのは、／焼き物師自身だ。」Dunn は、前者を、王宮を飾る見事な装飾を施された器、後者を、下層民の家の中で使われる瓶と説明する。Cf. J. D. G. Dunn, *Romans 9-16*, Word Biblical Commentary 38b, p.557。

¹⁸¹ 原文は *skeuē orgēs katērtismena eis apōleian*。*katērtismena* は、完了、受動分詞、中性複数対格形<*katartizō*(用意する, 手入れをする, 完全なものにする, 等)。新共同訳は「怒りの器として滅びることになっていた者たち」, 協会訳「滅びることになっている怒りの器」, 新改訳「その滅ぼされるべき怒りの器」, フランシスコ会聖書研究所訳「滅ぼされて当然の怒りの的である器」, 青野訳「滅びへと造られた怒りの器」。しかし、Dunn の “vessels of wrath made ready for destruction” が適訳だと思う。cf. J. D. G. Dunn, *op. cit.*, pp.559f.

くださったのだとすれば、23 またそれが、神が栄光に導こうと予め準備しておられた憐れみの器に対して、ご自身の栄光の豊かさを知らせるためだったとすれば、（どうでしょう）。24 このような者として、わたしたちを、神はユダヤ人からだけではなく、異邦人からも召し出してくださいましたのです。25 ホセアの中でも、神が言われているとおりです。

「わたしはわたしの民ではない者をわたしの民と呼び、
かつて愛されなかった者を愛された者と呼ぶだろう¹⁸²。

26 『あなたたちはわたしの民ではない』

と語りかけられた¹⁸³ その場所で、

彼らは『生ける神の子ら』と呼ばれるだろう¹⁸⁴ と。

27 また、イザヤはイスラエルについて叫んでいます。

「たとえば、イスラエルの子らの数が海の砂のようであっても
残りの者が救われるだろう¹⁸⁵。

28 「というのは、言葉を、主は地上において、完全に
そして縮小して¹⁸⁶ 実行されるからである」と。

29 そしてそれはまた、次のようにイザヤが予め言っていたとおりです。

¹⁸² ホセア 2 : 25, 参照。

¹⁸³ 原文は *errethē autois*。

¹⁸⁴ LXX 訳ホセア 2 : 1, 参照。

¹⁸⁵ イザヤ 10 : 22, LXX 訳ホセア 2 : 1, 参照。

¹⁸⁶ 「完全にそして縮小して」は, *syntelōn kai syntemnōn*。 *syntemnōn* は新約ではここだけに出るが、その意味の解釈については時間的か量的かで議論が分かれている。28 節は 27 節の理由づけであるから、意味的には 27 節の「残りの者」を受けるのが順当であろう。パウロはここに、主なる神が約束の言葉を、イスラエルの子らの全体数から残りの者へと縮減・縮小して実行する姿を読み取ったのである。J. D. G. Dunn, *op. cit.*, B. Byrne, S. J., *Romans*, 当該箇所参照。前者は, “for the Lord will complete and cut short and will perform his word on the earth.” 後者は, “for it is by completing and curtailing that the Lord will carry out his word upon the earth.” 青野訳「厳格に」は「残りの者」との関連が不鮮明。新共同訳、フランシスコ会聖書研究所訳「速やかに」、協会訳「すみやかに」、新改訳「敏速に」はいずれも時間的解釈。この解釈は、なぜパウロが 28 節を 27 節の理由づけとして引用したかを説明しにくい。因みに、NRSV も “quickly (and decisively)”, Fitzmeyr も “with (rigor and) dispatch” で時間的解釈。

「もし、万軍の主がわたしたちに子孫を残されなかったなら、
わたしたちはソドムのようになったであろうし、
ゴモラと同じようになつたであろう」¹⁸⁷ と。

〈イスラエルと福音〉

30 では、わたしたちは何と言いましょか。義を追い求めていない異邦人が、義を、すなわち信従に拠る義を捉えました¹⁸⁸。31 しかし、義の律法を追い求めているイスラエルは、律法に到達しませんでした¹⁸⁹。32 なぜでしょうか。それは、信従に拠らずに、業に拠って（到達しうる）かのように（追い求めている）からです¹⁹⁰。彼らは躓きの石に躓いたので。33 次のように書かれているとおりです。

「見よ、わたしはシオンに、躓きの石、すなわち
妨げの岩を置く。
そして、これを信じる者は辱められることが
ないだろう」¹⁹¹ と。

10

兄弟のみなさん、わたしの心の切なる願い、彼らのための神への祈りは、
（彼らが）救いに（到達する）¹⁹² ことです。2 というのは、彼らのために

¹⁸⁷ 引用は LXX 訳イザヤ 1 : 9。

¹⁸⁸ 原語は、katelabēn。katalambanō の 2aor。「掴む、捉える、捕捉する」。diōkō「追い求める、追いかける、追跡する」とセットになっている。なお、10 : 20 におけるイザヤの引用、参照。

¹⁸⁹ 原語は、ephthasen。phthanō の 1aor。「達する、到達する」。因みに、前節も本節も「追い求める」は現在形、「捉える」「到達する」はアオリスト形。両者の現在形とアオリスト形の対照は重要である。なお、10 : 2 ~ 3, 参照。11 : 7 は、本節と前節の内容を逆転して簡略に述べている。

¹⁹⁰ ここは、意味上推測可能な動詞が二つとも省略されている。

¹⁹¹ イザヤ 28 : 16, 8 : 14, マタイ 21 : 42, 1 ペトロ 2 : 6 ~ 8, 参照。さらに後半部については、ローマ 10 : 11, 参照。

¹⁹² 動詞はないが (eis sōtēriān), 31 節の「律法に到達しませんでした」(eis nomon ouk ephthasen) から、こう解するのが妥当。

証言しますが、彼らは神への熱心を持ってはいますが、それは真の認識¹⁹³に基づいていないからです。3 というのも、彼らは神の義を知らずに、自分の〔義〕を立てることを追い求め、神の義に従わなかったからです。4 というのは、すべて信じる者にとって、義に到達させてくださるキリストこそ、律法の目標¹⁹⁴ だからです。

〈万人の救い〉

5 モーセは律法に拠る義を、「それらを行なう人は、それらによって生きるであろう」¹⁹⁵ と書いています。6 しかし、信仰に拠る義はこのように言っています。「あなたは心の中で、『誰が天に昇るだろうか』と断言してはいけません」¹⁹⁶ と。これはキリストを引き摺り下ろすことです。7 あるいは「『誰が、陰府に下るだろうか』」¹⁹⁷ とも。これはキリストを死者たちの中から引っ張り上げることです。8 そうでなければ、何と言っているのでしょうか。「あなたの近くに言葉はある。あなたの口の中に、あなたの心の中に」¹⁹⁸。これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉です。9 な

¹⁹³ 「真の認識」は *epignōsis*。

¹⁹⁴ *telos (gar) nomou Christos* の解釈は、分かれている。キリストは「律法の終わり」なのか、「律法の目標」なのか。1 節からの文脈とガラテヤ 3：23～24 に現れる、「律法はわたしたちをキリストのもとへ導く養育係となった」という理解を重視すると、キリストは「律法の目標」という理解の方がふさわしいと思う。しかし、既にキリストに導き入れられた「養育係の下にいない」者にとっては、キリストは「律法の終わり」と見ることも不可能ではない。新共同訳が「目標」。他は「終わり」、あるいは「終わらせた」のように動詞的に訳す。B. Byrne, *op. cit.* が “the (true) goal of the Law.” J. D. G. Dunn, J. Fitzmeyer とともに “the end of the law”。議論については、それらの当該箇所注解、参照。

¹⁹⁵ 2：13、ガラテヤ 3：12、レビ記 18：5、参照。

¹⁹⁶ 申命記 30：12、バルク 3：29、4 エズラ 4：8、ヨハネ 4：13、参照。

¹⁹⁷ 申命記 30：13、箴言 30：4、詩編 71：20、知恵の書 16：13～14、さらにルカ 16：19～31（「金持ちとラザロ」）、特に 26 節、参照。

¹⁹⁸ 申命記 30：14。青野が指摘するとおり、申命記 3：12、13 節、14 節のいずれにも「行なうことができる」と繰り返されているが、パウロは意図的にそれらを削除して引用している。

ぜなら、もし、あなたの口でイエスを主と¹⁹⁹告白し、あなたの心の中で神が彼を死者たちの中から立ち上がらせたと信じるならば、あなたは救われるからです。10 実際、心で信じられるのは義のため、口で告白されるのは救いのため²⁰⁰です。11 というのは、聖書が書いていますが、すべて「彼を信じる者は、辱められることがないだろう」²⁰¹からです。12 というのは、ユダヤ人とギリシア人の違いはないからであり、また、同じ主が、すべての人の主であり、彼を呼び求めるすべての人に対して恵み豊かな方²⁰²だからです。13 というのも「主の名を呼び求める者はすべて救われる」²⁰³からです。

14 では、どうすれば、信じたことのない者に向かって人は呼び求めることができるのでしょうか。また、どうすれば、聞いたこともない者を信じることができるのでしょうか。また、どうすれば、宣べ伝えている者²⁰⁴無しに聞くことができるのでしょうか。15 また、どうして、遣わされずに、宣べ伝えることができるのでしょうか。次のように書かれているとおりで

¹⁹⁹ 他に、1コリント12：3、フィリピ2：11同様「イエスは主である」という信仰告白の言葉ととる解釈、「主イエス」ととる解釈(青野訳)がある。新改訳、L. Gastonがわれわれと同じ解釈。cf. L. Gaston, *Paul and the Torah*, University of British Columbia Press, 1987. 因みに、1コリントもフィリピも「主格+主格」。それに対してここは「対格+対格」。

²⁰⁰ ここは、単純な構文だが訳しにくい箇所。青野訳「心で信じられて義へと〔至る〕のであり、口によって告白されて救いへと〔至る〕のである。」新共同訳「人は心で信じて義とされ、口で公に言い表して救われるのです。」など。

²⁰¹ 9：33、イザヤ28：16、参照。ただし、9：33では「これ」は直前の「躓きの石、すなわち、妨げの岩」を受けるが、ここでは、イエスを受けるので、訳文の上では「彼」となる。パウロは、引用文の直前に「すべて」pāsを入れている。

²⁰² 原文は、ploutōn eis pantas tous epikaloumenous auton. で ploutōn は plouteō の現在分詞、男性・単数・主格形。

²⁰³ 引用はLXX訳ヨエル3：5。さらに1コリント1：2参照。

²⁰⁴ この節で使われている動詞は他がすべてアオリストなのに、この分詞だけが現在形。パウロは、福音を現に宣べ伝えている自分を指して言っているのであろう。

す。「何と美しいことか、良いことを告げ知らせる者の足は」²⁰⁵ と。16 しかし、すべての人が福音に聴き従ったわけではありません。というのは、イザヤが「主よ、誰が、わたしたちの聞かせたことを信じましたか」²⁰⁶ と言っているからです。17 こういうわけで、信仰は聞くことから（始まり）、その聞くことはキリストの言葉を介して²⁰⁷（成り立つの）です。18 いや、むしろ、わたしは言います。彼らは聞かなかっただろうか、と。とんでもありません。

「彼らの声は全地に行き渡り、
また、彼らの言葉は世界の果てにまで
（行き渡った）」²⁰⁸ のです。

19 いや、むしろ、わたしは言います。イスラエルは知らなかつただろうか、と。最初に、モーセが言っています。

「わたしは民ではない者たちによって
あなたたちに妬みを起こさせ
愚かな民によって、あなたたちを怒らせよう」²⁰⁹ と。

20 また、イザヤは、大胆にも言っています。

「わたしは、わたしを追い求めない者たちに [よって]
見出され、

²⁰⁵ イザヤ 52：7，ナホム 2：1，参照。特に、前者の前半部「いかに美しいことか／山々を行き巡り、良い知らせを伝える者の足は。」「告げ知らせる者の」は *tōn euangelizomenōn* で、当然、「福音を宣べ伝える者」を直接想起させずにはおかない言葉。

²⁰⁶ 引用は、LXX 訳イザヤ 53：1。「聞かせたこと」は *akoē*。ヨハネも引用しているが、新共同訳では「だれがわたしたちの知らせを信じましたか」と訳している。*akoē* は、基本的に「聞かれたこと」つまり「知らせ、説教」を意味するが、ここでの議論の要が *akouō* 「聞く」ことにあるので、それとの関連が明らかな訳語が望ましい。

²⁰⁷ 「キリストの言葉を介して」は *dia rhēmatos Christou*。「キリストの言葉」は、「キリスト自身の言葉」と「キリストを告げ知らせる言葉」の両義を内包する。この両義的な属格表現は、パウロが意図的に用いた可能性がある。cf. J. D. G. Dunn, *op. cit.* p.623.

²⁰⁸ 引用は、LXX 訳詩編 18：5（マソラでは 19：5）。

²⁰⁹ 引用は、LXX 訳申命記 32：21。ただし、2 箇所 *autous* 「彼ら」をパウロは *hymās* 「あなたたち」に換えている。

わたしを尋ね求めない者たちに姿を現した」²¹⁰ と。

21 しかし、彼はイスラエルに向かっては、言っています。

「わたしは、一日中、わたしの手を差し伸べた、
不従順で抗弁する民に向かって」²¹¹ と。

11

〈イスラエルの残りの者〉

それでは、わたしが言います。神はご自身の民を退けられたのでしょうか。断じて、否です。というのは、わたしもまたイスラエル人であり、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の出なのですから。2 予め知っておられた「ご自身の民を神は退けなかった」²¹² のです。それとも、エリヤのところ²¹³で聖書が何を言っているか、あなたがたは知らないのですか。どのように、彼がイスラエルに逆らって神に懇願しているかを²¹⁴。3 (それは、) 主よ、「あなたの預言者たちを彼らは殺し、あなたの祭壇を彼ら

²¹⁰ 引用は、LXX 訳イザヤ 65：1 の順番を入れ替えたもの。記憶に基づくためか。「姿を現した」は *emphanēs egenomēn*。形容詞 *emphanēs* はパウロではここだけ、他には使徒言行録 10：40 にだけ出る。「目に見える姿になった」「目に見える姿で現れる」等。

²¹¹ 引用は、LXX 訳イザヤ 65：2。「抗弁する」の原語は *antilegonta* で、*anti+lego*。「一日中」*holēn tēn hēmerān* は、むしろ「片時も休まず」のニュアンス。

²¹² LXX 訳サムエル記上 12：22, LXX 訳詩編 93：14。パウロは原文の *kyrios* (主は) を *ho theos* (神は) に、動詞の時称を未来からアオリストにそれぞれ換えた。さらに「ご自身の民」を修飾する「予め知っておられた」という神の選びを表す言葉 *hon proegnō* を追加した。

²¹³ 原文は *en ēliā*。「エリヤの箇所」「エリヤに関する箇所」。“in the section about Elijah” (cf., J. D. G. Dunn, op. cit.)。

²¹⁴ 原文は *hōs entynchanei tō theō kata tou Israēl*。前置詞 *kata* を含めて、直訳調に訳す方がいいと思う。新共同訳「彼は、イスラエルを神にこう訴えています。」青野訳「いかにエリヤがイスラエルを神に訴えているか」フランシスコ会聖書研究所訳「エリヤはイスラエルを次のように神に訴えませんでしたか。」“how he appeals to God against Israel?” cf., J. D. G. Dunn, op. cit.

は破壊しました。そしてわたし一人が残されましたが、彼らはわたしの命を追い求めています」²¹⁵、です。4しかし、神託²¹⁶は彼に何と言っているのでしょうか。わたし自身のために「わたしはバアルに膝を屈めなかった七千人の男たちを残した」、です。5それで、このように、今このときにも、残りの者²¹⁷が恵みの選びにしたがって、生じることになりました。6しかし、もし恵みによるのであれば、それはもはや業によるものではありません。でなければ、恵みがもはや恵みでなくなってしまうからです。7それでは、どうなるでしょう？ 自分が探し求めたものをイスラエルは手に入れず、選ばれた者²¹⁸が手に入れました。また、その他の人々は頑なにされました²¹⁹。8次のように書かれているとおりです。

「神は彼らに与えられた、麻痺した霊と
見えない目と聞こえない耳を、
きょうという日に至るまで」²²⁰と。

²¹⁵ LXX 訳列王記上 (Rg. III) 19:10, 14, 参照。預言者たちの殺害と祭壇の破壊の順番が逆転していることと、「そしてわたし一人が残されました」の表現の相違 (LXX 訳: kai hypoleleimmai egō monōtatos, パウロ: kāgō hypoleiphthēn monos) が目立っている。

²¹⁶ 原語は chrēmatismos。「神の託宣, お告げ, divine answer, oracular」。
hapax legomenon。

²¹⁷ 原語は leimma。9:27にある「残りの者」は hypoleimma (LXX 訳イザヤの原文では kataleimma)。11:3に出る「残されました」は hypoleipomai の変化形。いずれも hapax legomenon。また, 11:4の「残した」は kataleipō の変化形。

²¹⁸ 原語は hē eklogē。普通は「選び」(9:11, 11:5, 28, 参照)を意味するが, ここでは, 集合名詞として「選ばれた者」と解される。

²¹⁹ 原語は epōrōthēsan < pōroō (硬くする, 頑なにする)。1aor., 三人称複数, 受動。所謂神的受動。

²²⁰ LXX 訳申命記 29:3, 同イザヤ 29:10, 参照。申命記の当該箇所のはり記憶に基づく引用か。原文の主動詞 edōken についている否定詞 ouk が省かれ(「与えなかった」→「与えた」), 代わりに, 原文の「目」, 「耳」を修飾する「見る」, 「聞く」(肯定)が「見ない」, 「聞かない」(否定)に代っている。そして元来「悟る心」であった語が, その否定的な意味のゆえに, イザヤ 29:10にある「麻痺した霊」に入れ替わっている。内容的には, イザヤ 6:9~10(マタイ 13:14~15 およびその並行記事, 使徒言行録 28:26~27 に引用), 参照。

9 ダビデもまた言っています。

「彼らの食卓は、罌となれ、網となれ²²¹,

躓きとなれ、そして彼らへの報復となれ。

10 彼らの目は眩まされて、見えなくなれ²²²,

そして彼らの背中を絶えず曲げておいてください」と。

〈異邦人の救い〉

11 ではわたしが言います。彼らが躓いたのは、倒れるためですか。断じて、否です。むしろ、彼らの違反によって救いが異邦人たちのものになり²²³、その結果、彼らに妬みを起こさせるのが目的なのです²²⁴。12 しかし、もし、彼らの違反が世界の富、また彼らの敗北が異邦人の富ならば、彼らの救いの実現²²⁵ はましてどれほど大きな (富になる)²²⁶ でしょう。

²²¹ 9～10 節は、LXX 訳詩編 68：23～24 に基づく引用。ただし、1 行目最後の「網となれ」eis thērān は原文では「彼らの前で」enōpion autōn。おそらく、パウロは 2 行目最後に「彼らへ (の)」autois があるので、「彼らの前で」の代わりに、類似した呪いを語る LXX 訳詩編 34：7～8 に出る「網」を前後の「罌と」、「躓きと」、「報復と」に合わせて、eis+対格にして挿入したのであろう。なお、9 節の動詞は、文頭の genēthētō (<gīnomai, laor., 三人称単数, 受動, 命令) のみ。

²²² 「見えなくなれ」は「眩まされよ」の結果を示す定冠詞+不定詞形 tou mē blepein。「眩まされよ」skotisthētōsan は laor., 三人称複数, 受動, 命令。これも所謂神的受動。なお、4 行目だけが 2 人称命令形。

²²³ 原語は hē sōtēriā tois ethnesin。動詞がない。

²²⁴ 「むしろ」(alla) 以下の文章では、eis to parazelōsai autou という前置詞句の中の「妬みを起こさせる」parazelōsai という不定詞だけが動詞。ここでは、この不定詞句こそがパウロの主張の主眼。ユダヤ人の違反のお陰で異邦人の救いが現実になったが、神の目的はそこにはなく、むしろユダヤ人に妬みを起こさせることにある、とパウロは言う。

²²⁵ 原語は to plērōma autōn。直訳すると「彼らの満ちること、充滿、成就、完成」。青野訳「彼らの〔救いが〕満ちること」、新共同訳「彼らが皆救いにあずかる」協会訳「彼らが全部救われたなら」新改訳「彼らの完成」、フランスコ会聖書研究所訳「彼らの数が満ちること」、「their fullness」(J. D. G. Dunn, B. Byrne, S. J.), 「their full number」(J. Fitzmeyer)。

²²⁶ 原語は単に posō mallon。この前に「富」ploutos が二度繰り返されているので、ここもやはり「富」が省略されていると考えるのが順当。

13 しかし、あなたがた異邦人にわたしは言います。わたしは異邦人の使徒ですから、その限りでわたしの職務²²⁷を光栄に思っていますが、14 何とかしてわたしはわが肉なる者²²⁸に妬みを起こさせたいし、彼らの中から何人かでもわたしは救いたい²²⁹のです。15 というのは、もし、彼らの捨てられることが世界の和解なら、受け入れられることは死者たちの中からの命でなくて何でしょうか。16 もし、初穂が聖なるものなら、練り粉もまた、もし、根が聖なるものなら、枝もまた（そうです）。17 しかし、もし、枝の何本かが折り取られて²³⁰野生のオリーブ²³¹であるあなたが、それらのあとに接木され、オリーブの木に養分を与える根にともにあずかる者²³²になったとしても、18 あなたは、これらの枝に対して誇ってはいけません。しかし、もし誇ったところで、あなたが根を支えているのではなく、反対に、根があなたを支えているのです。19 そうすると、あなたは言うでしょう。枝が折り取られたのは、わたしが接木されるためだった、と。20 そのとおりです。彼らは不信仰のゆえに折り取られました。あなたは信徒のゆえにしっかりと立っています²³³。高慢な思いを抱いてはいけません²³⁴、むしろ畏れなさい。21 というのは、も

²²⁷ 原語は diakoniā。従来の日本語訳は「務め」、英訳は“ministry”。背景に「仕える、奉仕する、世話する」diakoneōがある。「奉仕職」「仕える者としての職務」。

²²⁸ 原語は mou tēn sarka。9：3に「肉に基づくわたしの同属」tōn syngenōn mou kata saraka という表現がある。9：5にはキリストに関して「肉に基づけば」to kata sarkaと言われている。

²²⁹ 動詞はどちらも1人称、未来形。「妬みを起こさせたい」は10：19に引用されている申命記の原語と同じ。

²³⁰ 原語は exeklasthēsan。<ekklaō(折り取る、割き取る)。1aor., 三人称複数、受動。19, 20節にも出る。22節と24節に類義語 ekkopēsēi(「切り取られるでしょう」), exekopēs(「切り取られて」)がそれぞれ出る。

²³¹ 原語は agrielaios(<形容詞 agrios+elaios)。新約聖書では、ここと直ぐ後の24節にだけ出る。

²³² 原文は synkoinōnos tēs rixēs tēs piotētos tēs elaios。

²³³ 原語は hestēkas。5：2、参照。

²³⁴ 原文は mē hypsēla phronei。1テモテ6：17に mē hypsēlophronein が出る。協会訳「高ぶった思いを抱かないで」、新改訳「高ぶらないで」、青野訳「高ぶった思いを抱いてはならず」、新共同訳「思い上がってはなりません」

し、神が生まれながらの²³⁵ 枝を容赦しなかったとすれば、あなたを容赦することも [おそらく] ないはず²³⁶ だからです。22 ですから、神の慈愛と厳しさとを見なさい。倒れた人々の上には厳しさが、あなたの上には神の慈愛があります。ただし、もし、あなたが慈愛に留まり続けるならば、です。さもなければ、あなたもまた切り取られるでしょう²³⁷。23 しかし、あの人々もまた、もし、不信仰に留まり続けなければ、接ぎ木されるでしょう²³⁸。というのは、神なら再び接ぎ木することができるからです。24 というのも、もし、あなたが、生まれつきの²³⁹ 野生のオリーブの木から切り取られて²⁴⁰、生まれに反して良いオリーブの木²⁴¹ に接ぎ木

ん、フランシスコ聖書研究所訳「思い上がってはいけません」。

²³⁵ 原語は kata physin。新共同訳「自然に生えた」、フランシスコ会聖書研究所訳「自然のままに生えた」、青野訳「生来の」、協会訳「元木の」、新改訳「台木の」、英訳は基本的に、"natural"。同じ kata physin が 24 節に二度出る。翻訳上の難しさは、近接する三つの箇所使われているこの言葉が同じであることを訳語にどう反映するか、である。

²³⁶ 原文は oude sou pheisetai。未来形。

²³⁷ 原語は ekkopēsēi。<ekkoptō (切り取る, 断ち切る, 切り倒す)。未来, 二人称, 単数。

²³⁸ 原語は enkentristhēsontai。<enkentrizō (接木する)。未来, 三人称複数, 受動。同じ語が、本節後半 (enkentrisai) と、次節に二度 (enkentristhēs, enkentristhēsontai) 出る。

²³⁹ 原語は kata physin。新共同訳、フランシスコ会聖書研究所訳「もともと (野生であるオリーブの木)」、青野訳「生来の」、協会訳「自然のままの」、新改訳は訳に反映していない。英訳はやはり基本的に、"natural"。

²⁴⁰ 原語は exekopēs。2aor., 二人称単数, 受動。

²⁴¹ 「生まれに反して」は para physin。kata physin の反意語。青野訳「自然に反して」、協会訳「自然の性質に反して」、新共同訳「元の性質に反して」、新改訳「もとの性質に反して」、フランシスコ会聖書研究所訳「手を加えて」、英訳は "unnaturally" (J. D. G. Dunn), "contrary to nature" (J. Fitzmyer, B. Byrne, S. J.)。「良いオリーブの木」は kalielaion。agrielaion と対比して使われているので、kali-は「栽培されている, 栽培種の」を意味する。フランシスコ会聖書研究所「栽培されている」、新改訳「栽培種の」、英訳は上記三者とも "cultivated"。これらの対比は、アリストテレス以来の伝統的なもの。人間が手を加えて「品種改良」したものが「良い」オリーブであり、イスラエルは幾世紀にもわたって神が手塩にかけて栽培してきた「良い」オリーブなのである。

されたとすれば、生まれながらの（枝である）彼ら²⁴²がもとの自分のオリーブの木に接ぎ木されるのは、ましてなおさら（容易なはず）²⁴³だからです。

〈全イスラエルの救いという神秘〉

25 兄弟のみなさん、わたしは次の神秘をあなたがたに知らずにいてほしくありません。それは、みなさん自身[の判断]²⁴⁴で賢い者にならないためです。すなわち、頑なさが部分的に²⁴⁵イスラエルには生じましたが、それは、異邦人の救いの実現²⁴⁶が到来するまでのことで、26 こうして全

²⁴² 原語は *houtoi hoi kata physin*。21 節の *tōn kata physin kladōn* を受ける。つまり *hoi kata physin kladoi*。新共同訳「元からこのオリーブの木に付いていた枝」、協会訳「これら自然のままの良い枝」、フランシスコ会聖書研究所訳「もともと栽培されているオリーブの枝」、青野訳「これら生来のオリーブ」、新改訳「これらの栽培種のもの」、「those who belong to it naturally」(J. D. G. Dunn, B. Byrne, S. J.)、「these, the natural branches」(J. Fitzmeyr)。

²⁴³ 原語は 11:12 と同じく、単に *posō mallon*。「容易なはず」は意味上の補足。

²⁴⁴ 原文は [par'] *heutois*。写本の傾向は三種。12:16 の影響で "par" を入れているもの、写字生がより自然な表現として "en" に換えているもの (A, B)、さらに偶然脱落しているもの (p⁴⁶ など)。「みなさん自身 [の判断] で賢い者にならないため」の背景には、箴言 3:7 や LXX 訳サムエル記上 (Rg. 2:10) がある。前者は「あなたはあなた自身の判断で賢い者になってはいけない (*mē isthi phronimos para seautō*)」、後者は「賢い者は、その賢さを誇ってはいけない (*mē kauchasthō ho phronimos en tē phronēsei autou*)」。また、20 節の「高慢な思いを抱いてはいけません (*mē psēla phronei*)」という警告も参照。

²⁴⁵ 厭くまでもイスラエルに生じた頑なさは「部分的な」ものに過ぎない。異邦人の使徒パウロの中では、イスラエルと異邦人という対比がまだ厳然と生きているし、何よりも彼自身イスラエルに属している。9:3~5, 10:1, 11:1~2 a, 11, 等、参照。

²⁴⁶ 原語は *to plērōma tōn ethnōn*。直訳すると「異邦人の満ちること、充満、成就、完成」。11:12 の *to plērōma autōn* と対になっている。青野訳「異邦人たちの〔救いの〕満ちる時」、新共同訳「異邦人たち全体が救いに達する」、協会訳「異邦人が全部救われるに至る時」、新改訳「異邦人の完成のなる時」、フランシスコ会聖書研究所訳「異邦人の数が満ちるようになる」、「the

イスラエルが救われることになるでしょう。次のように書かれているとおりです。

「シオンから救う者がやって来て、
ヤコブから不信心を退けるだろう²⁴⁷。
27そしてこれは、彼らと（結ぶ）わたしの契約、
わたしが彼らの罪を自ら取り除くときに」²⁴⁸と。

28福音に従えば、彼らは、あなたがたのゆえに敵²⁴⁹ですが、選びに従えば、父祖たちのゆえに愛された人々です。29というのは、神の恵みの賜物と招きは、撤回されない²⁵⁰からです。30あなたがたは、かつて神に不従順でした。しかし、今、彼らの不従順によって憐れみを受けることになりました。ちょうど同じように、彼らも、今、あなたがたが受けた憐れみによって²⁵¹不従順になりましたが、それは、彼らも [今] 憐れみを受けるためなのです。32というのは、神はすべての人を不従順の中にとともに閉じ込めました²⁵²が、それはすべての人を憐れむためだったからです。

full number of the Gentiles” (J. D. G. Dunn, B. Byrne, S. J., J. Fitzmyer)
²⁴⁷ LXX 訳イザヤ 59：20～21, 参照。パウロでは、「シオンのために」heneken Ziōn が「シオンから」ek Ziōn に、詩編 14：7, 52：7 (イザヤ 2：3, 参照) の影響で、変わっている。また、「救う者」の意味は「主」から「再臨のキリスト」に変わっている。7：24～25, 1テサロニケ 1：10, 4：15 以下, 参照。キリストの再臨は、ヤコブ、つまりイスラエルにも救済史の神秘を啓示し、彼らを立ち帰らせてくれる、とパウロは願っている。

²⁴⁸ エレミヤ 31：33, イザヤ 27：9, 参照。

²⁴⁹ 「敵」については、5：10, 8：7, 12：20, 1コリント 15：25～26, ガラテヤ 4：16, 5：20, フィリピ 3：18, 等, 参照。イスラエルの敵としての神については、イザヤ 63：10, エレミヤ 30：14, 参照。

²⁵⁰ 「神の恵みの賜物と招き」は, ta charismata kai hē klēsis tou theou。「招き」は「召し, 召し出し, 召命」とも訳しうる。内容的には, 1：6～7, 8：28～30, 9：6～26, 参照。「撤回されない」の原語は ametamelēta。他に 2コリント 7：10 に出る。

²⁵¹ 原語は tō hymeterō eleei。

²⁵² 原語は synekleisen。<synkleiō (一緒に閉じ込める)。1aor., 三人称単数。パウロでは, この他, ガラテヤ 3：22, 23 に出る。新約の残りの用例は ルカ 5：6。これは, 網が裂けるほど大漁の魚を「一網打尽にした」箇所。

「33 ああ、神の富の深さよ、
 知恵と知識の深さよ²⁵³。
 何と、その諸々の裁きは、究めがたく、
 また、その諸々の道は計りがたいことか」²⁵⁴。
 34 というのは「誰が、主の思いを知っていたらろうか。」
 あるいは、「誰が、その助言者になっただらうか」²⁵⁵。
 35 あるいは、「誰が、主に先んじて主に与え、
 （あとから）その報いを自分に受けるだらうか」²⁵⁶。
 36 なぜなら、万物は、神から出、神によっており、
 神に向かう²⁵⁷ からです。
 神に、栄光が永遠に（ありますように）、アーメン²⁵⁸。

²⁵³ 「深さ」 bathos 以外はすべて属格。便宜的に「深さ」を二度訳した。1 コリント 1：21， 2：7， 10， 参照。「知恵」の背後にはユダヤ教知恵文学の伝統がある。ヨブ記 28 章， 参照。神の「知識」は選びと結びついている。8：29， 11：2， 参照。

²⁵⁴ 神の裁き（ミシュパト）も主の道（デレク）もユダヤに特徴的なトpos。シリア語バルク 14：8～9， 参照。さらに、イザヤ 26：8～9， 創世記 18：19， 出エジプト記 33：13， エゼキエル 18：25～29， 参照。

²⁵⁵ 引用は、LXX 訳イザヤ 40：13。ヨブ記 25：8， エレミヤ 23：18， らさに、1 コリント 2：16， 参照。引用符の外に出した「というのは(gar)」，「あるいは(ē)」がパウロの挿入。

²⁵⁶ ヨブ記 41：3， 参照。補足的に同 35：7， 参照。

²⁵⁷ 1 コリント 8：6， 他に同 11：12， 15：27～28， 参照。パウロは、ここでストアの用語を駆使して、唯一の神を称えている。万物は、神によって創造され、世の終わりに至るまで神によって維持され、神を目指している。

²⁵⁸ 「神に」は人称代名詞与格形 autō。この手紙の末尾 16：27 に同型の頌栄がある。ここでは、autō が関係代名詞 hō に置き換えられ、その前に、monō sophō theō, dia Iēsou Christou, 「唯一にして知恵ある神に、イエス・キリストをとおして」という句が付け加えられている。